

## 8 . 今後の方向性

今後の方向性として、重要な点を以下に整理します。

### 継続的改善のしくみづくり

この基本構想が一過性の取組みで終わることのないよう、策定後も事業の着実な実施、評価、改善を図っていく必要があります。そのため、以下のしくみと体制を設けます。

整備事業の進捗状況に関する情報を広く市民に公開します。

市ホームページ、市広報誌などを活用し、継続的に情報提供を行います。

バリアフリー基本構想に関する対応窓口を継続的に設置し、市民や当事者からの意見を適宜受け付け、フォローアップを図ります。

市民参加による「交通まちづくり市民会議（仮称）」を設置し、運営する中で、抜本的なまちや交通の改善など、今回具体化が困難であった課題についても市民とともに議論していきます。

### 継続的かつ積極的な質の向上

この基本構想に示した整備事業を実施した後もさらに高い志をもって、継続的かつ積極的に質の向上を図る必要があります。

高齢者、障害者などの当事者のニーズは多様であり、よりきめ細やかな配慮が望まれます。

そのためには、平素からバリアフリーに関する情報収集や当事者意見の把握に努めていきます。

### 建物も含めたバリアフリー化の推進

この基本構想は主として鉄道駅や駅前広場、道路などを対象に策定していますが、まち全体のバリアフリー化を考えるうえでは建築物のバリアフリー化も重要です。

駅前広場や道路などと建築物の間が一体的・連続的に移動できるよう配慮するとともに、建物内部のバリアフリー化についても積極的に行っていきます。

### バリアフリー化を図る地域の拡大

この基本構想の内容は、優先的に交通バリアフリー化を図るべき重点整備地区として駅周辺の範囲を中心に策定していますが、中長期的にはバリアフリー化を図る地域の拡大を目指していきます。